

小学校での体験教室の様子



磯貝 豊店



竹内 泰祥堂



お菓子司 竹内泰祥堂

〒943-0832 上越市本町4-3-20 ☎025-523-3763 営/9:00~18:30 休/月



磯貝豊店

〒942-0001 上越市中央5-2-27 ☎025-543-4239 営/8:00~18:00 休/土・日・祝



食べた人が笑顔になる 和菓子を目標して

和菓子職人歴41年の竹内勉さん。18歳から5年間、京都で和菓子のイロハを学んだ経験が「原点」といいます。特に茶道の歴史と文化に根付いた上生菓子「練り切り」の技術は帰郷後に自身のオリジナルティとして発揮され、父から受け継いだ銘菓「長崎カステラ」に続く新たな主力商品に発展。独特の細工に必要な道具も業箸を加工して手作りするなど、研究に余念がありません。「こいのぼり」や「鶴」など、季節の行事、植物、動物を題材にした新作を次々と生みだし、ショーケース内を彩っています。

全国和菓子協会がすぐれた技術を評価し、認定する資格「選和菓子職」の「優秀和菓子職」に3回挑戦し、平成24年に三度目の正直で難関を突破。同部門は県内で唯一の認定といい、菓子作りをつづける上での自信になっています。資格を通じ、全国の名だたる名店の職人と交流する中で得た知見は、上越市内の各和菓子店が加盟する研究会へ「東和会」や、高田地区の和洋菓子店やパン店で組織する「高田菓子工業組合」の仲間にも共有。「みんな努力し、がんばっている。全体のレベルアップになれば」と、高め合うための手段として惜しみなく提供しています。平成27年に厚生労働省の「もの

長年ひたむきに磨きつづけてきた高度な職人技、同業者との交流



竹内泰祥堂 竹内 勉さん

づくりマイスター」に認定されて以後、新潟県職業能力開発協会の事業で上越市内や糸魚川市内の小学校に派遣され、子どもたちにどら焼きや練り切りを実演指導。子どもたちから菓子作りを身近に感じてもらうことで「上越のお菓子の文化を守りたい」と情熱を注いでいます。 や講師派遣による功績により認定された「にいがたの名工」。「好きな仕事をしていただけだが、見てくれた人がいたんだと、感謝しかない」と喜びつつ、「自分より長くお菓子作りをしている人、自分より上手なお菓子を作る人がいる。恥ずかしいものは出せない」と責任も感じています。お菓子を作りつづける上で「作り手の一方的な思いで提供してもダメ。お客様がどう見られるか」と自覚。練り切りに代表されるように、食味だけでなく見た目から味わうものにとらえ、「喜んでいただけるお客様の笑顔を想像し、おいしいもの、きれいなものを目指して味と形を追究していきたい」と先を見据えています。

受け継がれる技術『にいがたの名工』

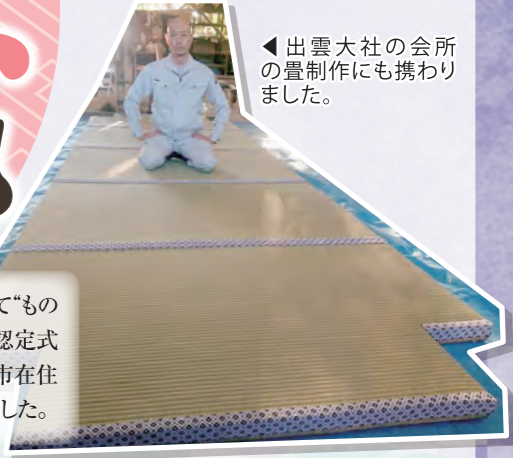
上越の職人の技と心



若手技能者だけではなく、企業や小・中・高等学校での講演会を通じて“ものづくり”の魅力を次世代へ伝えている『にいがたの名工』。毎年秋に認定式が行われています。令和3年度は6人が認定され、そのうち2人は上越市在住でした。今回はその2人の名工にこれまでの活動と今後の目標を聞きました。



出雲大社の会所の畳制作にも携わりました。



「にいがたの名工」ってなに？

新潟県では、卓越した技能者を『にいがたの名工』として、独自に表彰・認定しています。料理人や美容師、配管工など職種はさまざま。現在58職種201人。技能者の地位や技能水準の向上を図るとともに、そのすぐれた技能を活用し、次世代の人材育成や技能の継承を目的としています。

全国大会での入賞などの一定条件を満たし、市町村・商工会議所などの推薦または自薦があった人の中から県知事が選定。認定された技能者は、講習会やイベントでの実演などの活動を行い、ものづくりの魅力を次世代に伝えています。

1300年以上続く 畳文化をこれからも

畳工として『にいがたの名工』の称号をもつ磯貝清英さん。産業の発展とほかの技能者の模範、人材育成に大きな貢献をしています。磯貝さんは、高校卒業後、茨城県にある訓練校で2年間学び、職人歴34年を迎えます。家業の畳工としての歴史は元禄時代まで遡ることができ、磯貝さんで17代目になります。



磯貝豊店 磯貝 清英さん

継ぐのかな」と思っていたそうですが、高校時代は車やバイクに興味があり、整備士を志したこともあったそう。進路を選択する時期に、訓練校の見学に行き、「情熱を持ち後進を育てている訓練校の校長先生と出会ったことが人生のターニングポイントになった」と語る磯貝さん。厳しいながらも熱心な指導のもと、懸命に研鑽を積み、「畳製作技能士」の国家資格を取得しました。20歳ごろに上越へ戻り、現在に至ります。

現在は、厚生労働省の「ものづくりマイスター」として、上越地域の小学校で出張授業を行っています。最近では自宅に畳を敷いた和室が少なくなり、身近に畳と触れ合う機会がない子どもたちも多く、「家に畳がある人？」と質問すると、約半数がいないと答えるそうです。実物を持つことで、子どもたちに触れてもらうことで、「すべすべして気持ちいい。いい香り。寝転がってみたい」など、畳の持つよさに気付いてくれることがうれしいそ

「奈良時代から1300年つづいている日本の伝統文化を継承するため、これからも活動機会があれば積極的にやりたい。畳はい草や稲わら、日本で育つ農産物ででき、調湿や抗菌効果など、健康な住まいに欠かせないアイテム。日本の風土や気候に適した畳を後世に残すためにもさまざまな形で情報発信していきたい」と話します。

小学校での出張授業のほかにも、10年以上にわたり、県内で国家資格を目指す人向けに指導も行う磯貝さん。これまで100人以上の指導にあたってきました。「畳の修繕などで当店に入ってくるものを見ると、基本がなっていない仕事も多い。よい仕事をする職人を育てることも重要な使命」と話します。

工房での作業の様子

